

ふるさと直江の 地形 地質 景観 Vol.7

前回までは、直江町の南側にある②丘陵状低山地の地層・地質ついて述べてきました。また、前号の最後で、低山地の南西端に予想される「大森層」について、今回述べると予告しておりました。しかし、6月以降の猛暑により現地踏査ができなかったため、申し訳ありませんが予定を変更し、今回はこれまでに集めた資料や写真のある③仏経山について述べることにしました。

仏経山は、周辺の山と比べて抜きん出て高く（標高366.0m）、斐川町のシンボルとなっております。直江地区から見る仏経山は、下左写真①のように左右対称に近い形の美しい山です。しかし、2万5千分の1地形図に示すように、仏経山は北北東～南南西に連なる「東の峰」・「中の峰」・「西の峰」の連峰で、最も高く三角点があるのは「西の峰」です。



この3連峰のほぼ正面となる斐川町神水から写したのが左写真②で、西の峰が最も高いのがわかります。直江地区からの写真①では、距離が近い東と中の峰がほとんど重なって見え、また最も南にある西の峰までは遠くなるため、東の峰より低く見えます。写真はありませんが、荘原地区から見ると、東の峰とその東にある336m峰の2峰しか見えません。

昨年60年ぶりに友人と登って実感しましたが、3連峰のうち、最も眺望がよいのは、直江・出西・阿宮3地区境界となっている東の峰で、中の峰と最も高い西の峰（出西・阿宮境界）は、雑木に囲まれ眺望はききません。その際に、336m峰の東にある鞍掛山（直江・荘原・阿宮境界）にも登りましたが、写真①と地形図に示すように、三角錐状の尖った形状をしており、西側の登山道は、非常に急勾配でした。

写真①で分かるように、斐川平野のすぐ南にある丘陵状低山地に比較して、仏経山や鞍掛山の標高が高く、その斜面は非常に急勾配となっており、山地やその斜面がどのようにしてできたのか、興味深いところがあります。

仏経山の地質は、本シリーズ(2)において、新第三紀中新世の「久利層」に属する流紋岩溶岩で構成されているとの概要を述べました。今回は、この地質と地形との関連性について、詳しく述べたいと思います。

角田 彰(東本町)



ご寄付のお礼

直江地区自治協会へご寄付をいただきました。
(香典返し 金一封)(届出順)

- ・原 勇司 様(雅 夫 様 / 令和4年6月)共栄町
- ・水 豊康 様(一 義 様 / 令和4年4月)漆治菅沢
- ・川田 昭 様(ヒデ子 様 / 令和4年8月)東本町
- ・伊藤 富夫 様(キミ子 様 / 令和4年7月)新町

()内は故人
ありがとうございました。
直江地区自治協会を通じて、社会福祉団体等へ配分し、有効に活用させていただきます。

お礼

8月4日(木)
斐川西中学校さんから、花苗をいただきました。コミセンの花壇に植えさせていただきました。ありがとうございました。



直江コミュニティセンターからのご案内

●近日開催イベントについて

※詳細については配布チラシにてお知らせいたします



- ★環境について考えよう……………(10月)
- ★文化祭……………(10月16日㊥)
- ★直江健康ウォーク……………(10月30日㊥)
- ★高齢者交通安全教室……………(11月)
- ★直江地区カローリング大会……………(11月13日㊥)
- ★手作り凧に挑戦……………(12月上旬)
- ★寄せ植え教室……………(12月)
- ★チャレンジ!子どもスケート教室……………(1月)

※新型コロナウイルスの影響で、変更や中止になる場合があります。



お願い
コミセンでは、行事やイベントの際に写真撮影をし、コミュニティセンター報やホームページに掲載しています。ご理解ご協力をお願いします。



なおいえ

な かまを おうえんする えがいのまちづくり

いっしょに進もう! みんなでまちづくり!

発行/直江コミュニティセンター TEL:72-5282 FAX:72-5286
E-mail:naoe-cc@local.city.izumo.shimane.jp

直江地区の世帯と人口	
令和4年8月31日現在	
世帯数……………	1,660
人口……………	3,978
(男性)……………	2,002
(女性)……………	1,976

直江コミセン 検索



6月25日(土)

運営委員会・事業委員会

合同視察研修会

6月25日(土)運営委員会・事業委員会の合同視察研修を開催し、当日は21名の参加者で飯南町各所にて視察を行いました。大しめなわ創作館では出雲大社と同程度の大しめ縄制作過程を見学しました。地元の稲わらを使い、最終的



な「燃り(より)」の段階では地域の方々も多数協力して燃り上げるとのことでした。森林セラピーでは空気や音を感じ、様々な動植物を観察しながら、森での楽しみ方を教えて頂きました。ふだん何気なく接している植物も、植生や効能など詳しく教えて頂くと初めて見る草木にも愛着が沸くようでした。中山間地であって冬場の気候や都市部との往来など厳しい条件下にありながら、地域資源を有効に活用し、人を呼び込む町づくりの取り組みは非常に参考になりました。また今回の訪問先で各世代の方たちが活躍しておられる姿も印象に残りました。視察研修の成果が直江地区のまちづくりに生かせればと感じたところです。



在宅医療座談会 6月16日(木)

「アドバンス・ケア・プランニング」

自主企画事業 高齢者・子ども支援部
共催:直江地区健康づくりの会

島根県立大学出雲キャンパスより、加藤さゆりさんをお招きし、「アドバンス・ケア・プランニング」の講演会を開催しました。家族があるいは自分が倒れ、緊急の治療が必要になった時の対応など前もって決めておく事を「アドバンス・ケア・プランニング」と言います。いざという時どうしたらよいのか、先生ご自身の経験を交えながら、また安心ノートを使いながら教えていただきました。いざという時は急に訪れます。話し合いができる元気なうちに決めておくことが大事だと痛感する、とても勉強になった講演会でした。



自主企画事業 高齢者・子ども支援部
場所:直江コミセン 集會室 8月21日(日)

木に学び 木であそぶ ~チャレンジ!モノづくり~

拜藤建具店の拜藤純さんを講師に迎え、木工教室を開催しました。コロナ感染防止の為、窓を開け冷房が効きにくい暑い中、慣れない工具を使い四苦八苦しながらも参加者の方は楽しそうに小物入れを組み立てて行き、皆さん素敵な作品が出来上がりました。コロナ禍の為様々な行事が中止になる中、少しでも夏休みの思い出になればと思います。



8月27日(土)

直江ふるさと探訪

自主企画事業 総務部・地域活性部 合同企画

場所:直江コミセン 集會室



8月27日(土)に、総務部と地域活性部の合同で「一式飾り 歴史講演会」を開催しました。当日は26名の参加者があり、前半では直江一式飾りの生みの親である江角屋善助さんのお話を一式飾り保存会の望月会長に、後半では、島根・鳥取両県や西日本各地に伝わる一式飾り・造り物について広く研究をしておられる鳥取大学地域学部の高橋健司教授に詳しくお話をさせていただきました。望月会長は、江角屋善助さんやその一族について、様々な所から資料集めや聞き取り調査を行っておられることに感銘を受けました。後半の高橋教授のお話では、山陰地方では一式飾りと呼んでいるが、富山県高岡市や兵庫県丹波市では造り物と呼んでおり、一式の材料も野菜・竹製品・婚礼用品等が使われており、野菜の場合1日経つと臭う難点があるなど、多くの興味深いお話を拝聴しました。コロナ禍で、ここ3年なおえ夏祭りが開催されておりませんが、来年度夏祭りが復活し、直江一式飾りのすばらしさを再認識できるように祈っております。

地域活性部 部長 角田彰

8月6日(土)

場所:直江金刀比羅神社

なおえ七夕まつり

8月6日に「なおえ七夕まつり」を開催しました。このイベントは、なおえ夏祭りはじめ様々な行事が中止される中、少しでも夏祭りの雰囲気をお子様達にあじわってもらおうと、直江親子会の七夕まつりに合わせ直江商興会で企画したイベントです。

予想以上にたくさんのお子様や家族連れにご来場いただき、久々に子供たちの賑やかに楽しむ姿にふれることができました。また保護者の方からは「新しく買った浴衣をやっと着ることができて親子でよるこんでいます」など、多くの感謝の言葉をいただきました。

行事が中止されると地域とのつながりも減っていきます。中止するのは簡単ですが、地域活性化のためには開催できる方法をしっかりと考えながら、今後も活動していきたいと思っております。

お手伝いいただいた直江親子会の皆様、協賛いただきました直江コミュニティセンター様には感謝申し上げます。ありがとうございました。

直江商興会 事業部長 藤江浩貴



消防訓練

7月13日(火)

コミセン職員で消防訓練を実施しました。1階、東側の調理室から出火したと想定して避難誘導をし、駐車場へ避難しました。センター長指導の下、消火の際、風上から消火していき、火が弱まってから近づいて行くなど消火の方法を学びました。



7月5日(火)

場所:斐川西中学校

花作業 マリーゴールド 植替え

西中学校の生徒さんの花苗の移植作業を、環境保全連合会の方3名、コミセン職員3名でお手伝いをしました。

猛暑の続く中、当日は薄曇りで少し風もあり、比較的作業のしやすい天候でした。

各クラスに分かれて先生の説明を聞いた後、ポット苗をプランターへ植替える作業がスタートしました。



スムーズに作業が進んでいき、植替えが終わった生徒さんからフラワーロードに並べる為にプランターを運び出していき、先生の指導のもと怪我など無く、予定通り終わりました。学校周辺が花で彩られるのが楽しみです。

共に“人権”について考えましょう

直江地区人権・同和教育推進協議会

皆さんは「人権」という言葉にどんな印象をお持ちですか? 「何だか堅苦しい」「ややこしくて難しい」「(差別しないから)自分は関係ない」など、重たい問題だと受け止めたり人権について考えたりするのをついつい避けがちではないでしょうか。永瀬豊美さんは、「人権は大切・・・でも人権に対する抵抗感を持つ人が多い。それは私たちが差別の歴史にどっぷり浸かってきたからである。日本社会には差別を温存する風土があり、差別意識は社会の意識として空気のごとく存在をしている。出自や家柄にこだわる意識、迷信や因習を気にする意識、世間体意識、異質性を嫌い排除する意識などが一人一人の心の中に沈殿し、何かの折に顕在化する」と話されました。(※参照)人権は、私たちが人間らしく生きるために、人種や民族、性別などの違いにかかわらず生まれながらに持っている権利です。しかし、現実にはいじめ問題、SNS上でのいわれなき誹謗中傷、個人情報の不当な拡散など、様々な人権侵害や差別事象が起っています。また、それらは決して私たちと遠いところで起っている事ではありません。差別は差別をする人がいるから起るのであり、無知や偏見、固定概念や先入観、妬みなど人の心に根差している問題です。その一例が同和教育です。今でも部落差別はあるの? そっとしておけば自然になくなるのでは? 自分とは無関係の問題・・・という意識が依然としてあり、同和教育は今でも重要な人権課題の一つです。次の詩は、同和教育の解決に長年取り組まれた江口いとさんの作品です。少し前の作品ですがどうお感じになりますか。

「人の値うち」

(今野敏彦編『人の値うち—江口いと人権の詩』明石書店発行より)

- いつかもんぺをはいてバスに乗ったら 隣座席の人は私をおばはんと呼んだ
- 戦時中よくはいたこの活動的なものを どうやらこの人は 年寄りの着物とと思っているらしい
- よそ行きの着物に羽織を着て汽車に乗ったら 人は私を奥さんと呼んだ
- どうやら人の値うちは着物で決まるらしい
- 講演がある 何々大学の先生だと言えば 内容が悪くとも人々は耳をすませて聴き良かったと言う
- どうやら人の値うちは 肩書で決まるらしい
- 名も無い人の講演には 人々はそわそわして帰りを急ぐ
- どうやら人の値うちは学歴で決まるらしい
- 立派な家の娘さんが部落にお嫁に来る でも生まれた子供はやっぱり部落の子だと言われる
- どうやら人の値うちは 生まれた所によって決まるらしい
- 人々はいつの日 このあやまちに気付くであろうか

直江地区では、令和5・6年「出雲市同和教育研究指定事業」に取り組みます。この事業は、すべての人々の人権が尊重される社会をつくるために、地域で人権・同和教育を進める事業です。斐川町では、既に西・久木・荊原・伊波野・出東地区で実施され、地域全体だけでなく自治会や地域団体単位で学びが進められています。

人権を尊重することは、だれにとっても住みやすいまちづくりの基本です。そして、お互いの立場を認め合い、思いやりの気持ちをもって接することが身近な人権尊重につながります。永瀬さんは、「人権に対する姿勢は人間としての見識と生き方が問われる問題であり、絶えず人権を心に留め、学び続けることが必要である。そのために、人権問題に関心を持つ⇒知る努力をする⇒気づく力をつける⇒指摘する力を持つ⇒人権に配慮する生き方を志向する」と話されました。直江地区でも、この機会に人権について自分の事として皆さんと共に考えたいと思います。今年度は、「人権問題に関わるアンケート」「地域研修会」を予定していますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。(文責:石原順)

※永瀬豊美さん:雲南市人権センター人権・同和教育啓発指導講師
(第129回島根県同和教育推進協議会連合会出雲ブロック研究集会での講演より)



島根大学医学部看護学習

8月29日から31日まで島根大学医学部看護学科の早期地域看護学実習を直江地区で行いました。学生5名、先生2名が地域の様子を徒歩で見学しました。各所で色々とお話を伺い、今年入学したばかりの学生も、意欲的に取り組んでいて、良い学びの機会になったようです。ご対応いただいた地域の皆様、ありがとうございました。

